できた。この平野の西側を流れる土器川の扇状地は緩斜して海岸までのびているが，降水量が少なく，しかも傾斜に沿って降水が流出することから，土器川の水量は少なく工業開発には適さない。讃岐富士ともよばれる飯野山はtypical な butte である。地図からも四条，五条などの地名が読みとれるようにここでは条理制の遺構がみられる。従ってここは日本でも最もはやくからひらけた平野の1つであるということができるだろう。農家の経営規模は五反百姓といわれるように小さいが，兼業が発達しているため，農業収入は少なくても農家収入は大であるという。瀬戸内に顕著にみられた溜池も現在では土地不足のためどんどん埋め立てられ，かわって深井戸を堀ったり川にダムをつくるなど，近代的設備が考えられている。

第3日目 ― 大歩危・小歩危を訪れた。紀伊半島からのびてきた中央構造線は東西に走り四国を北側の内帯と南側の外帯とにわけている。外帯の四国山地では，古生層，中生層が帯状構造をなしているが，吉野川がこの山地の中央を横谷をなして横切っている。この峡谷が大歩危・小歩危である。両岸は数十～数百mの断崖が続いていたが，峡谷に沿って立派な自動車道路がつくられていた。周囲は急傾斜の階段耕作が多くみられ，段も水平でないことが多い。この後，工讃線で高知へと南下したが，列車の中で気づいた山地の北と南とでの気候の違いは鮮烈な印象であった。

（3年　石田）

那　　須　（松井教官）

昭和45年10月11日～14日

11日　車中景観，12日　南金丸，13日　乙連沢，14日　大田原市郊外の水田地

〔車中景観〕　上野～大田原市

地形・作物・集落・防風林の地域変化に注意する。

荒川の沖積低地である川口では町の中に水田が見られる。大宮台地にさしかかるとおかぼとなりさつまいも，そして白岡付近の桑，そばの白い花と，景観が変わってゆく。大宮をすぎると照葉樹を混えた防風林をもつ集落が見られる。防風林はかやぶきの屋根を保護するためのものであり瓦となった現在はあまり必要としないそうだ。スレートぶきの新しい家は防風林をもっていないのが多い。宇都宮から宝積寺にかけて台地の比高が大きくなる。鬼怒川を越えると宝積寺面に上る。矢板あたりでは揚水ポンプがあちこちに見られ那須盆地に入ってゆく。

〔１２日〕

黒羽街道をバスで南金丸原までいく。那須野面と親園面の比高を測り境を追跡していった。

① 1.8 m	③ 2.9 m	⑤ 1.9 m	⑦ 3.0 m
② 3 m	④ 1.5 m	⑥ 2.2 m	

〔１３日〕

那須野面の中にまだ面がないかどうか比高を測っていった。結果は次のとおりである。

① 2.7 m	③ 1.7 m	⑤ 0.7 m
② 3.0 m	④ 1.5 m	⑥ 1.5 m

稲の刈り取りの時期で，刈り取りともみを取ることを一度にやる機械が田の中を走っていた。このあたりは揚水ポンプ（５KW）が非常にたくさんある。

米を増やす政策のために開田したところが見られたが，減反政策が行なわれている現在どうしているのであろうか。

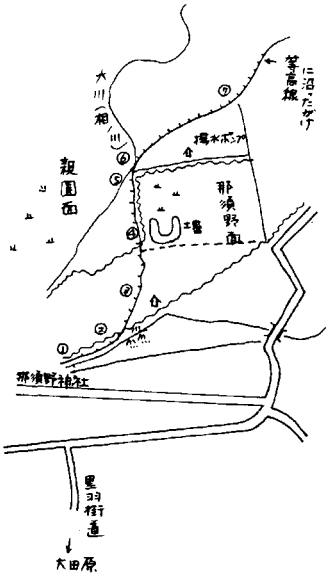
〔１４日目〕

大田原市の南の水田において，那須野面，親園面の比高を測り２万５千分１の地図上で追跡していった。

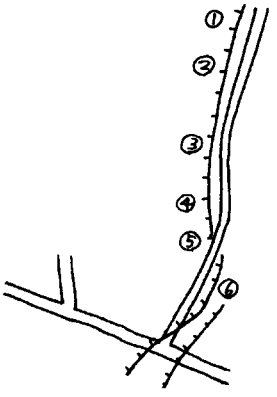
① 1.1 m　② 0.9 m　③ 2.3 m

（３年　青木）

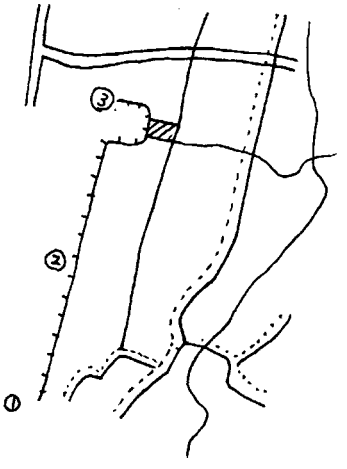
１２日



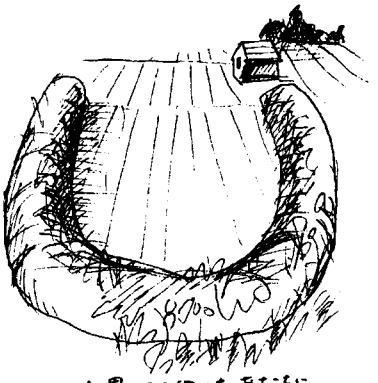
１３日



１４日

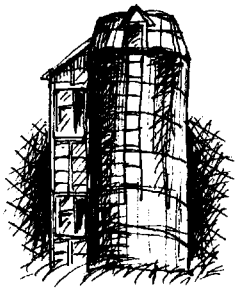


１２日



土塁．この他にも．あちこちに
散らばっている。もとは
つながっていたらしい．
城跡ということだ．今は
田になっている。

１３日



S31年度．新鬼村建設
特別助成事業とあった
篠原のサイロ

佐　渡　島　巡　検（式　教官）

昭和４５年７月３日～７日

昭和４５年７月３日……東京 → 佐渡小木

７月４日……小木半島，江積

７月５日……国府川砂丘，二見半島，尖閣湾，平根崎

７月６日……関，大佐渡北部 → 両津弾崎（佐渡北端）

７月７日……ドンデン山，解散

４泊５日の日程で行なわれた佐渡島への巡検は，式先生，林原さんを混えて総勢７人という小ぢんまりしたものであった。行く先々で，佐渡高校の校長先生など，いろいろな方の歓迎をうけ，その方々のお世話なしには，交通機関などにおいて，このようなコースの巡検は成立しなかったと，一同感謝している。

小木半島では，琴浦の見事な海岸段丘，海蝕洞，横井戸などを，また半島先端の江積では，枕状熔岩と，小木地震による隆起波蝕台を見た。佐渡島の地形は，主に，大佐渡と小佐渡の山地，中央